



## 病児保育室 あんず通信 Vol. 46 2019年9月

あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています

### 【感染症だより】

#### ～RS ウイルスについて～

RS ウイルス (Respiratory syncytial virus) は、咳やくしゃみで広がり、吸い込んで感染するウイルスです。毎年流行するウイルスですが、今年も昨年と同様に7月から流行がみられています。症状は、鼻汁、咳、喘鳴、発熱などですが、乳児では鼻閉、哺乳低下、睡眠障害、チアノーゼ（酸欠）を起こし、重症化することがあります。年長児や成人では風邪症状でおさまりますが、乳児期は気管支炎や肺炎になり入院治療が必要になることがしばしばあります。特に、月齢の低い乳児は注意しましょう。

乳児は言葉で「苦しい」と表現できませんが、顔色が悪くなったり、哺乳量が低下したり（いつもの半分も飲めない）、咳き込んで吐いたり、呼吸が浅く速くなったり、呼吸するたびに鼻翼（小鼻）がぴくぴくしたり、首や胸まわりがへこへこ陥没したりするのが「苦しい」サインです。このようなサインを見逃さないようにしましょう。

#### ～百日咳について～

百日咳は、百日咳菌に感染することで発病する病気です。特に夜間ひどい咳が連続し、3か月位続きます。定期接種前の0～2か月の乳児は重症化しやすく、しばしば入院治療が必要になります。百日咳は定期接種の三種混合ワクチンや、四種混合ワクチンで予防可能ですが、毎年ダラダラと流行が続いています。乳児期に定期接種しているのに何故流行するのでしょうか？それは、定期接種の有効期間が短いからです。乳児期に3回、1歳で1回の合計4回接種すると数年間は抗体が付きませんが、5年くらいするとこの数値が下がってきます。このため、欧米では4～6歳の幼児期と11-12歳の小学生に定期追加接種、妊婦の接種などを行っています。日本ではまだこの制度が無いため、5歳前後以降、百日咳の流行が毎年起こっています。もちろん、成人でも百日咳に罹っている人がいます。ご希望の方には任意で三種混合ワクチン接種を受けることが出来ます。かかりつけ医に相談してみましよう。

文責： 清水マリ子

表：8月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(アノ1)	75
2	手足口病	64
3	ヘルパンギーナ	15
4	RS ウイルス	12
5	溶連菌	8
6	咽頭アデノウイルス	2
7	百日咳	1

#### ★WEB 予約について★

H30 年度から、**空き状況**を Web で確認出来るようになっていました。スマホ・携帯電話でも同様に**しみず小児科・内科クリニック**の予約ページかホームページから確認出来ます。表示が空きになっていても、病気の種類や時間差で入れない場合がありますので、ご予約は必ずお電話でお願い致します。



しみず小児科・内科クリニック